

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	I L e 糸満 かなさ		
○保護者評価実施期間	R7年 6月 1日		～ R8年 5月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	R7年 6月 1日		～ R8年 5月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年5月29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動内容やプログラム内容	活動内容を固定化せず、年間計画の作成と月々の目標を設定したきめ細かな活動提供を行っています。その目的のある活動を通して、日々お子様の療育の提供、自主性を育む為の支援を実施しています。	活動の中で、どうしてもやりたくない、したくないという集団参加が苦手なお子さんが楽しく自主的に参加できる環境の設定、一緒に取り組んだら“たのしかった”と感じられる一人ひとりの思いに沿った支援を日々模索しています。
2	個別支援活動	集団より個別の支援が必要なお子さんに対して言語トレーニング、作業療法トレーニング、心理側面的に必要な支援を提供しています。集団と個別のミックスした支援の提供を通して、社会参加を促します。	個別が必要なお子さんに対して、提供できる時間が確保することが難しい場面があります。そういった、支援をできる専門
3	専門職員との情報共有 クリニックとの連携	在籍の職員の専門性、所持している資格に応じた支援の提供、クリニックや専門職員との情報共有と情報判断に力を入れています。特に、クリニックとの連携は保護者様の安心につながり、必要な時に必要な受診に繋がるパイプ役を担っていることはすごく重要性を感じています。	保護者様にとってより専門性を持って支援や情報提供を行うために、日々保護者様との関わりを今以上に多くの時間を作っていく必要が課題でもあります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の療育の内容を保護者に伝える情報発信が乏しい	日々、療育を受けている保護者様に対してどんな内容か、実際の療育場面の状況、お子さんの姿が見えにくいよう感じていないか感じます	SNSやお知らせ、保護者療育体験会等を通してより今以上にどのように療育を受けているか可視化していく事が重要と感じています
2	地域に根付いた情報発信と関わり方について	小学校3年生までの在籍期間の中で、地域へ移行が必要なお子さんによる社会資源の情報が乏しいと実感しています	地域の社会資源を調べ、そういった関わりのある資源との交流の機会を作っていくために、こちらからチラシや企画、パンフレットを配布していく必要を感じています。
3	福祉、医療が必要なニーズある地域の保護者への情報発信	地域に福祉を必要としているご家庭、発達に悩みのあるご家庭の声を聴くことが少ないと実感しています	発達に悩んでいるご家庭に寄り添い手を差し伸べるシステム作りが重要と感じています。そういったシステムを作ることで、日々悩んでいる保護者が相談しやすい場を設けることで、お子さんの幸せを提供できるきっかけを担うことが私たちの仕事と感じています。